



京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
  - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
  - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ設ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓貳拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學士	中川得立
文學士	植田壽藏
文學士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學士	深田武
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
寶嚴方治	

書記

# 會 告

拜啓來る十月七日(第一日曜日)午後正一時より本會秋期公開講演會を左の如く開催致候間御出席被下度此段御案内申上候 敬具

一、會 場 京都法科大學第一教室

一、演 題

大鹽中齋の學說 文學博士 高瀬 武次郎 君

第十九世紀後半に於ける倫理學說の發達

文學博士 中 島 力 造 君

尙講演後午後五時半より學生集會所に於て會員晚餐會(會費壹圓貳拾錢)相開候間可成多數の御出席を希望致候。右御出席の諸君は乍御手数數其旨本月五日迄に本會宛に御通知被下度候

大正六年十月一日

京 都 哲 學 會

追而從來京都及近縣の會員諸君に對しては公開講演の都度其旨御郵報申上居候へ共此度は此會告を以て之れに代る特別の御通知を省略致候間左様御承知被下度候

istentia”である。原著者は新約研究の大家として、それを中心として、基督の發生を説明するに最も適任者であり、且つ常に其周圍の文化特に當代の希臘羅馬の思想との關係を考慮する所にその特長がある。全編は簡單な序論の後に四章を分つて、順次に基督の事業、エルサレム教會の成立、パウロの活動及び使徒後時代を説明して居る。先づ序論に於ては外部的史料を欠如して居る原始基督教の研究は、唯一の新約書を中心として、それから歴史的事實を推究するより外ないといふ著者の立場が宣言されて居る。而して第一章は福音書に現はれた所謂歴史の基督の考究であるが、其れを嚴密な歴史的批判から云へばとにかく、大體上その見解は公平と云はねばならぬ。基督の神觀、天國、罪惡觀、奇蹟等の説明は最も要を得て居る。唯だ屢々新約傳説に忠實すぎる傾向が見えるのは、所謂歴史主義の人に有りがちな難であるが、然し信仰の眼から見た基督の人格を明瞭に現はすには亦止むを得ないことであらう。第二章に於てエルサレム教會の起源を基督復活の信仰に歸するのはいゝとして、其信仰發生の額末や弟子達がエルサレムに集つた過程の曖昧に付せられて居るのは、材料の不備とは云へ物足りない心地がする。猶太人教徒と異邦人教徒との律法に關する思想の懸隔及び相互の交渉は、後の各章と照應して最も適切に描かれて居る。第三章のパウロを中心とする基督教の傳播、特に其背景としての希臘羅馬世界に於ける哲學道德及び宗教の一般的狀況は、著者獨特の識見を以て興味多く述べてある。パウロの傳道方法、書翰の體裁及び其思想信仰の纏つた敘述も巧妙を極めて居る。終りに第四章に於てエルサレム教會の後期及び分散の

狀況は歴史として今少しく精細な考慮と敘述が望ましい。其ヨハネ文學の內面的考察から使徒のヨハネと長老ヨハネの活動を區分することも、學的には議論のある所であらうが、然し其本文批評及びそれから出立して教會内外の思想及び組織が第二世紀前後に變遷して行く狀態を説く所は、蓋し著者の最も得意の舞臺であらう。要するに本書は部分的考證に備せず、又信仰主義の誇張や修養本位の訓誡とは趣を異にして、全く歴史的研究の立場から、而も基督教に十分の同情をもつて、簡明に其發展の初期の狀況を叙述せんとするのである。故に其國譯は波多野博士の『基督教の起源』と共に、我國の基督教研究者に好個の指導者となるであらう。殊に巻尾に付した譯者の註は初學者を便すると多く、譯者の勞を多しなればならぬ。然し忌憚なく云へば全體として譯文は此目的の爲めに適當なものとは云はれない。翻譯の困難を實際に味つた者はそこに充分の同情を持つては居るが、然しいかに原文の態を現はすにしても、其用語も文脈も殆んど原文を讀むつもりで見なければ理解し難いやうなのは遺憾である。ことに本書の如き一般の讀を目的とするものに於て、今少し國語らしく自由に譯されたらばと思はれる。定價壹圓、東京神田區南神保町一六、岩波書店發行。(宇野圓空)

## 寄贈雜誌

哲學雜誌、思潮、丁酉倫理講演集、心理研究、六合雜誌、東洋哲學、東亞之光、早稻田文學、學校教育、教育、内外教育評論、普

通教育、小學研究、教育研究、教育學術界、教育界、教育時論、  
 東京教育、京都教育時報、兵庫教育、奈良縣教育、靜岡縣教育、  
 滋賀縣教育會雜誌、岐阜縣教育、三重教育、長崎縣教育會雜誌、

都市教育、信濃教育、佐賀縣教育、藝備教育、宮城教育、愛媛教  
 育、シントイズム

## 前 號 目 次

ロツツエ 妥當說の由來……………	文學士 錦田 義富
ロツツエの時代……………	文學博士 朝永 三十郎
若さヴェルテルの悩み……………	文學士 成瀬 無極
平等觀個人主義(平民主義)と差別觀個人主義(貴族主義)……………	文學博士 藤井 健治郎
自然科學的認識の性質……………	文學士 安部 晴之助

註文規定

○會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候  
 ○本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候  
 ○振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候  
 ○前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべくに付直に御拂込下され度候  
 ○見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候  
 ○特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

定價

冊	數	定	價	一	郵	稅
一	冊	金	貳	拾	錢	壹
六	冊(前金)	金	壹	圓	貳	拾
十二	冊(前金)	金	貳	圓	四	拾

廣告料 一頁 金拾圓 半頁 金六圓

會告

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候  
 京都帝國大學 京都哲學會  
 文科大學内 振替口座大阪參〇六六參番

賣捌所

(東京) 東京堂、東海堂、北隆館、  
 良明堂、上田屋 (大阪) 盛文館  
 (京都) 寶文館 (神戸) 寶文館

發賣元

東京市日本橋區本石町三丁目 寶文館  
 大阪市東區淡路町四丁目

發行所

東京市日本橋區本石町三丁目 (振替口座東京二八〇番) 寶文館



編輯者 京都帝國大學文科大學内 京都哲學會  
 右代表者 寶嚴方治  
 發行者 大葉久吉  
 印刷者 青柳十一郎  
 印刷所 秀英舍第一工場

大正六年九月二十七日印刷納本  
 大正六年十月一日發 行

第十九號 第貳卷 第十冊